

札幌市議会議員

池田ゆみ

2024年5・6月号

市政事務所だより

【発行】日本共産党 池田ゆみ市政事務所 〒062-0904 豊平区豊平4条10丁目2-13高木ビル1階
【HP】 <http://www.yumi-ikeda.com/> 【電話】 818-8367 【FAX】 818-8368



市議会での対応を問う池田市議

子育て要求実現 市民運動で政治は変えられる

2024年度予算では、中学卒業まで子どもの医療費無料化が実現しました。来年度は高校生まで拡大されます。保育料も第2子以降の無料化が実現しました。いずれも、ねばり強い市民運動と、党市議団が議会でも何度も取りあげ、実現を迫った成果です。

中学、高校まで 通院・入院費の無料化

子どもの医療費は入院については中学生まで補助がありました。この4月から助は小学生までとなっていました。これが、この4月から中学生まで、通院・入院とも無料（初診料負担有り）となり、来年度からは高校生まで拡大されます。

子どもの医療費無料化については、全国で無料化が進む

昨年6月の市議会では池田ゆみ市議は、「子ども医療費助成は、全国で95%が中学生以上、うち5割は高校生までとなっているが、本市は小学6年生まで」と指摘。「医療費無料化を高校卒業まで拡大する考えはあるか」と問いました。市は「長期的な財政収

中、札幌市は遅れています。2018年には市民団体が署名運動を展開し、秋元市長に中学生までの無料化を迫りました。これに対する市の対応は、翌年に小学2年まで、翌々年に3年までと遅く、市民の批判を浴び、21年度になってようやく小学6年まで無料化としました。その後、道内でも高校までの無料化が進み、札幌でも高校まで無料化をとの声を高まりました。

支を見通した上で、方向性を定めていく」との回答にとどまりましたが、市民運動に押され、中学、高校までの拡大が実現しました。

市民の願い実現にがんばります

保育料についても世帯収入や兄弟姉妹の年齢に関係なく、2人目以降の保育料が無料と

敬老パスの変更、民間再開発補助などに反対

第1回定例市議会（予算議会）は2月14日から3月26日まで開催されました。日本共産党市議団は、敬老パスの変更や市民の十分な合意なしに進められる都心部の再開発補助、学校統廃合に反対し、これらの予算を含む一般会計予算に反対しました。

敬老パスの変更は白紙に

敬老パス制度について日本共産党市議団は本会議討論で、「市が10区で開催した『意見交換会』で出された意見、コールセンター、ネットに寄せられた意見は『敬老パスの見直しと健康寿命の延伸は分けて検討するべき。上限額2万円では足りない』など、拙速な制度変更は批判的なものがほとんどであった」と指摘。

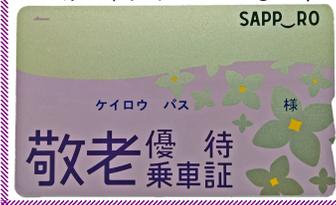
「『経過措置』を検討する旨の答弁があったが、そうした提案を行う前に、まず、健

なりました。さらに、来年度からはJRにおける精神障害者の運賃割引が実現することになりました。

いずれも、長年に渡る市民の願いが実現したものです。声をあげ運動を続ければ政治は変えられます。日本共産党市議団も、市民の願いを実現するためがんばります。

敬老パス制度とは

現行の敬老パスは、多年にわたり社会の進展に寄与してきた高齢者を敬愛し、明るく豊かな老後の生活の安定をはかり、家庭にこもりがちな高齢者が外出することにより活発な日常生活を営むことができるよう援護することを趣旨として、1975年に無料のフリーパスとして制度化されました。その後、一部負担金の導入や、利用上限の設定がなされながらも、多くの市民に喜ばれ、支持される制度として続いてきました。現在、対象は70歳以上で、千円から1万円7千円の負担で、1万円から7万円まで地下鉄やバス、市電に乗れます。





委員会で発言する池田市議

康寿命の延伸と、敬老パス制度の議論を分けるべき。現行の敬老パスがタクシーやJRに使えない課題の改善や、7万円の上限額、負担割合などについて、市民と十分に情報を共有し、意見交換を重ね、一步一步合意形成を図るべき」と主張。

結論ありきの姿勢を改め、経過措置やアプリ開発の方向をいったん白紙に戻し現行の敬老パス制度を土台に議論することを求めました。

補助金の引き上げ 市民の理解得られない

予算特別委員会の討論で、池田市議は北海道新幹線の札幌延伸にかかる経費について、ずさんな需要予測のもとに着工され、当初の経済波及効果も望めないこと、なによりもトンネル工事では

出る有害残土を住民の反対を押し切って、手稲区山口地区に持ち込んでいることを指摘し、これに反対しました。また、新幹線開業に合わせた民間再開発では、総事業費の増額がくり返され、補助金が引き上げられ

も発生したことを受け、孤独死を防ぐ「安心コール」事業などの取り組みについてたがしました。

参加者からは、この夏の猛暑で高齢者がどんな生活をしてきたのか、町内会や

孤独死、高齢者の居住問題など 59項目について豊平区交渉（懇談）

豊平区民の要求を実現する連絡会（区内9団体で構成）は昨年11月、59項目に渡る区民要求について豊平区交渉（懇談）を行いました。

交渉は池田市議の進行で進められ、猛暑の中一人暮らしの高齢者が死後10日間も発見されないという事態

が実施されたことを受け、孤独死を防ぐ「安心コール」事業などの取り組みについてたがしました。

参加者からは、「一人暮らしの高齢者はアパートが借りられない。市営住宅がたよりになるが、倍率が高くなかなか入れない。市は現実を見ていないのでは」との批判がされました。

また、計画されている学校の統廃合（豊平区は、あやめの小、旭小）については、「子どもと地域住民に大きく影響することから、当事者や住民との合意を図ることが重要。地域住民の合意なくすすめることは容認できない」として反対しました。

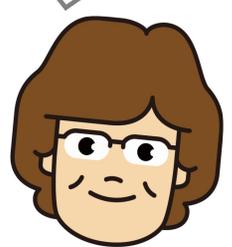
福祉のまち推進センターなど色んなチャンネルを通して把握していくことが大切との指摘がなされました。

池田市議は、「市は民間住宅の活用を言うがそれであれば、少なくとも市営住宅並の家賃になるよう家賃補助をすべき」と求めました。

（詳細は池田ゆみホームページに掲載）

投票所は徒歩、2〜3kmの範囲で配置されているとのこと。しかし、「足腰の弱い高齢者にとってのはづらい。いつまで行けるか？」

**こんにちは！
池田ゆみです**



**移動期日前投票所の開設
投票所までの移動支援を**

豊平区民の要求を実現する連絡会の交渉には、選挙の投票改善に向けた要望も出されました。

市も期日前投票所の増設や郵便投票の対象を広げるよう国に求めたり、指定施設（投票ができる病院や介護施設）を広げる努力をしたりしています。しかし、高齢化社会を迎え、市民がいきなり主権者として選挙権を行使することを保障するには、具体的な支援を検討するべきと考えます。

投票所は徒歩、2〜3kmの範囲で配置されているとのこと。しかし、「足腰の弱い高齢者にとってのはづらい。いつまで行けるか？」



豊平区交渉の様子

お困りごとは池田ゆみ市政事務所へ

物価高騰で家賃が払えない、学費が払えない、税金、保険料の減免ができないか、介護を受けたいなどが、お困りごとは池田ゆみ市政事務所 818-8367へお電話ください。

池田ゆみ市政事務所（36号線きたえーるに入る角、接骨院隣）は平日の10時～16時の間開いています。

無料の法律相談会も毎月第3木曜日午後2時から行っています。弁護士が対応しますので、こちらは予約が必要です。818-8367へお電話を。

こうした声にこたえた支援が必要ではないでしょうか。

全国では、投票所までの移動困難者を対象にした移動支援の実施や、車を利用した「移動期日前投票所」の開設に取組む自治体が少しずつ広がっています。経費も、選挙執行経費基準法に基づき国からの措置もあります。

私は第1回定例議会で「移動期日前投票所の開設や投票所までの交通費等の支援について検討すべきではないか」と質問しましたが、「実施されている地域は過疎化等による対応策として実施されている。本市としては、この先も実施する予定はない」との答弁でした。

地域の高齢化等の実態をつかみ、積極的な支援を進めることこそ投票率の向上につながるのではないのでしょうか。今後も皆さんと一緒に継続して頑張りたいと思っています。